

R8 年度 校内研究実施計画

1 研究主題及び教科

研究主題	非認知能力の育成 ～なかまづくりを通して～
教科・領域	全領域

2 主題設定の理由

本校では昨年度まで算数科の学習を通して「聴き合い、伝え合い、主体的に学ぶこども」の研究を進めてきた。成果として「わからない」ことを友だちに聴こうとする姿が見られるようになったが、一方で聞く姿勢が「形だけ」の指導に留まっている面や、自分の考えを仲間の意見と繋げて発展させる力に課題が残った。また、学習習慣が定着していないことや、困難に直面した際の「やりぬく力（非認知能力）」が不足しているという問題もある。

今年度は、なかまづくりの土台となる「人権教育」を主軸に据える。「綴る」活動を通し、互いの背景を知ったうえで互いを受け止め合える関係の構築を目指す。

同時に、係活動や学級会等の「特別活動」において、こども自身が「自己決定」し試行錯誤する場を設定することで、自尊感情を高め、困難に立ち向かうための非認知能力を向上させていく。

3 研究内容及び方法

(1) 「綴り方」の導入と実践

新たな取組のため専門的な知見を取り入れながら全教員で協議しながら進める。

- ・校内研修の充実：5月下旬から6月上旬に講師を招き、「綴り方」の導入・運用に関する実技研修を実施。全教員が指導方法を習得した上で実践を開始する。

- ・指導のステップ化：綴り方の校内研修や好事例に基づき、事実把握から始め、会話文（「 」）の活用、教師との「思い出し直し（推敲）」を経て、自分や仲間の生活事実を見つめ直す力を育てる。

- ・綴り方の日常的な交流：教員間で綴り方の進捗等について定期的に交流する。

（２）行事とリンクした自治的活動の推進（特別活動）

４月の研修で協議した「非認知能力のゴールの姿」を念頭に主体性を引き出す。

- ・自己決定の保障：運動会等の学校行事において、委員会や係活動等で「自分たちで何をするか」を決定・運営する場を意図的に設定する。「自制心」「自己肯定感」を向上させる。

- ・自治的活動：行事という共通の目標に向かって聴き合い・話し合って調整する経験を通し、「社会性」や「やりぬく力」を向上させる。

（３）一人ひとりのこどもの把握と支援

家庭との連携やこどもとの対話を通してこどもの困り感を掴み、全教員で指導の方向性を共有する。

（４）多様性を尊重し、共生を目指す人権学習の充実

個別的な人権問題について正しく知る機会を人権教育カリキュラムに位置づける。「みんなが安心して生活できる」を共通の目標とし、互いの違いを受容し、認め合い、より良い社会のために行動できる実践力を養う

4 年間研修計画

一 学 期	【4 月】 ・ 教職員研修 【5 月下旬～6 月上旬】 ・ 綴り方研修。 【6 月～7 月】 ・ 全校での綴り方の開始。 【8 月】 ・ 人権レポート交流
二 学 期	【9 月～12 月】 ・ 行事（運動会等）とリンクした自治的活動の展開。 【11 月 25 日】 ・ 人権学習授業公開。
三 学 期	【2 月 10 日】 ・ 人権学習授業公開。 【1 月～3 月】 ・ 1 年間の実践レポート交流。 ・ 非認知能力の変容の検証。 ・ 次年度への課題整理。